

基本理念

結果を導く J A Y C E E の行動が未来を変える

スローガン

じっせんきゆうこう
実践躬行

基本方針

1. 心豊かな地域コミュニティの再構築
2. 意識の醸成を行動へ変える地域づくりの推進
3. 地域社会から求められる価値の創造
4. 国際感覚と人間力の養成
5. 次代を担う子供たちの心の育成
6. J A Y C E E の成長による地域の活性化
7. 会員拡大による魅力ある組織の実現
8. 一貫性のある事業の実践

所 信

はじめに

「新日本の再建は我々青年の仕事である」という崇高な使命に共鳴し、社団法人千葉青年会議所が誕生してから半世紀、その間わが国日本は戦後の焼け野原からの復興を成し遂げ、世界有数の経済大国へと発展し、そして我々の郷土千葉も目覚ましい発展を遂げてきました。しかし、その進化の過程において、我々は大切なものを置き去りにしてきたことにも目を向けざるを得ません。世界有数の経済大国として物質的な豊かさを大いに享受する一方で、人々の心の荒廃は深刻な状況に至っております。凄惨な事件が後を絶たず、また実に17分に一人が自らの命を絶っているのが現状です。一刻も早くこの「心の焼け野原」からの復興を成し遂げることこそが現代における「我々青年の仕事」、つまり、心と心の絆がしっかりと存在する社会を創造することが我々の責務なのです。

昨年、創立50周年を迎えた社団法人千葉青年会議所は今ここに次の半世紀に向かう第一歩を踏み出しました。今までの50年間を振り返りつつ、新たな時代の舵取りを担うべく我々JAYCEEには、この「心の焼け野原」からの復興をなすために活動していくことが、今まさに求められているのです。

このように、我々の活動の目的は明確に存在しています。後は行動し、結果を残したか否かで真価を問われるのです。皆さんはその行動に納得しているのでしょうか。結果に満足しているのでしょうか。今、我々が共有すべき指針は、心の復興を成し遂げるための「行動」がどれだけ出来たか、そしてそれが思い描いた「結果」に達したかを自らに問う姿勢と態度ではないのでしょうか。人は何らかの結果を出そうと行動した時、はじめて困難に挑み、変化を恐れぬ態度を身につけます。そして、その行動が結果を導き、達成感を得ることで、更に次の行動へとつながっていくものです。本年度、社団法人千葉青年会議所では、この「結果」を導く「行動」を実践することで、閉塞感の漂う社会の復興をなして参ります。

1. 心豊かな地域コミュニティの再構築

かつてわが国の子供たちは、地域の良識ある大人たちとの日常的なかかわり合いから社会秩序や道徳心を養い、また彼らが大人に成長して同様に子供たちに接することで、社会全体に道徳心が育まれて参りました。

このように、長きにわたり継承されてきた「心豊かな地域コミュニティ」が殺伐とした現代社会から失われつつある今こそ、我われ大人たちが次代を担う地域の子供たちのために地域教育をなす奉仕活動に参画することで世代間交流を深め、連帯感を強めていくべきではないでしょうか。そして、我々JAYCEEはこの連帯感を「心豊かな地域のコミュニティ」へと発展させていくための取り組みの先頭に立つべきであると考えます。

2. 意識の醸成を行動へ変える地域づくりの推進

現在まで、我われ J C は市民意識醸成の名のもとに、様々な事業を展開して参りました。これにより、市民の皆様の地域に対する愛着心や思いは確実に膨らんできたと思います。「自分たちのまちを良くしよう」「自分たちの地域を大切にしよう」という機運が高まる中、まちづくりの牽引役である我われ J A Y C E E は次に何をなすべきなのでしょうか。

今、我われに求められていることは、市民の皆様のこの機運を実際の行動につなげていくことに他なりません。より地域に根差した運動を展開していくことで、醸成されつつある市民の意識を行動へと発展させ、「このまちは住みやすくなったね」と誰もが言える地域づくりを市民参画により進めていくための旗振り役となることが重要です。

3. 地域社会から求められる価値の創造

「明るい豊かな社会」の実現は今日の社会情勢を一見すれば、誰もが切望する目標であることは言うまでもありません。そして、この崇高な目標を実現させるために、行政や他団体には決して出来ない役割を担い続けることこそが我々の存在価値なのです。

我々青年会議所は「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、地域のために正義を貫き通す意志力と機動力では他の追従を許さないものがあり、我々が地域の先頭に立ちながら他団体との連携を強化し、彼らの専門性を大いに活用させていただきつつ、我々の強みである意志力と機動力を発揮して行政には出来ない運動展開を進めていくことこそ、まさに地域社会から求められている機能であり、我々の存在価値であると考えます。この気高き価値を我々 J A Y C E E 一人ひとりがしっかりと胸に抱き、地域の他団体と連携しながらリーダーシップを発揮することこそが、地域社会から必要とされ続ける社団法人千葉青年会議所の在り方なのです。

4. 国際感覚と人間力の養成

Think Globally , Act Locally という言葉があります。

「地球規模で考えよ」

「身近なところから行動せよ」

グローバル化が急速に進んだ現代において、我々の地域社会で起こる問題も世界情勢の変化に大いに影響されております。現代を生きる青年経済人には「地球規模の視野に立って物事を考えた上で身近な問題の解決に邁進する」ことが求められております。

我々 J A Y C E E は地球規模のネットワークを有しており、同時に地域密着の活動を行っております。まさに上記を実践できる環境に置かれていることを一人一人が強く認識し、国際感覚を高めるべく見識と、地域社会を構成し運営していくための自律した一人の人間として力強く生きていくための人間力を身につけることが必要不可欠です。J A Y C E E 一人ひとり、そして L O M 一つひとつの小さな取り組みが、全世界 26 万人の J C I ネットワークを介し、大きな社会変革を起こし、世界をも変えうる可能性をもっていることを再認識しながら、自己の能力開発を推し進めていくことが肝心です。

5. 次代を担う子供たちの心の育成

現在、子供たちの心の荒廃が深刻な状況であるのは説明に及びませんが、社会や地域の変化から取り残されてしまった彼らの心の置所が極端に少なくなってしまった今、その居場所をつくるのが大人たちの責任である一方、子供たちに夢と希望を与える機会を提供することも我われの責務であると考えます。子供たちは、抱えきれないほどの夢や希望を胸に成長していくことで、生きることを見出し、命の大切さを知り、愛情を育んでいくのではないのでしょうか。

次代を担う子供たちにこれらのことを伝えるためには、夢や希望を抱くことの大切さを、文章や説明ではなく、体験から感じることで気づき、学んでいくことが大切です。その体験による気づきが感動となり、子供たちの心に深く刻まれて大人へと成長していくのです。

6. JAYCEEの成長による地域の活性化

J Cは「社会の縮図」であるという考え方があります。それは、地域の経済や社会の活況状況と、そこに拠点を置くJ Cの活況状況とに相関関係が成り立つということです。つまり、我々社団法人千葉青年会議所のメンバーが皆生き生きとしていれば、千葉のまちも活性化し、その存在感を全国に知らしめることが出来るということなのです。

明日を担う我々JAYCEEが真剣に地域の未来のために互いに切磋琢磨しながら、結果を導くために行動し、自己研鑽を積む。そして、その地域に留まらずブロックや関東地区、そして日本J C、J C Iとより大きなステージへ活動の場を広げて多くの出会いを経験していくことこそ、J C活動の真髄であり、魅力であると言えます。そして、このプロセスを経て鍛え上げられたJAYCEE一人ひとりが、ひいては我々のまち「千葉」の存在感を高める人材へと成長していく。つまり、J Cは未来の「千葉」を担う人材を育成する最高の機関なのです。この学び舎で育った我々JAYCEEが未来の「千葉」を活性化させ、更なる発展を遂げるための人的基盤となるのです。

7. 会員拡大による魅力ある組織の実現

「桃李不言下自成蹊（桃李ものいはざれども、下おのずから蹊を成す）」

この言葉は、魅力ある人や組織には自然と人が集まって来るといったとえですが、各地青年会議所の会員数は、彼らがいかに地域に大きな影響を与える存在であるか否かを数値に置き換えたものであるとも言えるかもしれません。

我々の大きな課題の一つが「会員拡大」であることは言うまでもありませんが、そのためには、より多くの仲間を集める努力を会員全員で行っていくことと同時に、我われの活動をより具体的に、より多くの市民にご理解いただく手段を整備する必要があります。そして何より、社団法人千葉青年会議所、そしてそこに在籍する我々JAYCEEが他者から見て「魅力的」な存在になることが急務なのです。

8. 一貫性のある事業の実践

我々青年会議所の基本的なルールである「単年度制」はJCらしさを表現する組織運営の方法であることは言うまでもありません。その年その年の理事長方針によって組織の姿や事業の方向性が変化していくのは青年会議所の最大の利点ともいえるでしょう。しかし、我々が「公益法人社団」取得を実現するために、そして何より地域社会から求められる価値を創造し、結果を導く行動を実践していくためには、少なくとも2～3年の周期で一貫したコンセプトのもとにあらゆる事業を行っていく必要があります。もちろん、我々がJCである以上、この「単年度制」を変えることは難しく、また「単年度制」の素晴らしさを手放すつもりもありません。この制度以上に人を短期間で成長させうる制度は存在しないと確信しております。

但し、その弊害は回避する必要があります。地域社会から見て一貫性のある行動を続ける団体はその信頼度が高くなり、よってその地域への影響力も高まり、いろいろな人材が集まってくるものであると考えます。今、我々は事業の継続性を第一義に考えた上で、それぞれの企画を構築し、実践していくことをなすべきなのです。

むすびに

行動力の発揮とは、論ずることに終わることなく、何かを必ずなし遂げるという態度であり、それは決意の表明でもあります。この行動力なくして天下国家や地域を語れば、それはただの評論にすぎません。我々JAYCEEは評論家の集まりではなく、実務家の集団です。「間違っている」「納得できない」と評価を下して立ち去るその前に、自分がどれだけ行動し、本当にその眼で、その耳で、そしてその心で真に触れて確かめたのかという問いかけを常に己にするべきではないでしょうか。

行動無くして結果は生まれません。不作為の罪を回避し、青年としての英知と勇気と情熱をもって、ためらわずに行動する態度を共に身につけていきましょう！我々はJAYCEEなのでありますから。